

KANZAKI



幸せつなごうかんざき

～みんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまちを目指して～



神崎市の花：桜



神崎市の木：モミジ

佐賀県神崎市 2023年(令和5年)3月発行

発行 〒842-8601
神崎市神崎町鶴 3542 番地 1
TEL0952-52-1111
FAX0952-52-1120
<https://www.city.kanzaki.saga.jp/>

企画編集 特定非営利活動法人さがコミュニティ情報企画
印刷 (株)オオサワ印刷



自然・歴史・文化の彩り豊かな地域

【概要】

神崎市は古代から人々が生活を営んできた歴史や文化の彩りが豊かな地域です。弥生時代における邪馬台国の時代のクニを彷彿とさせる吉野ヶ里遺跡や、古代の官道跡などがあり、この地域が重要な役割を果たしていました。また、室町時代の豪族城館跡や南北朝時代の城跡などの史跡があり、江戸時代の旧長崎街道では往時の面影を偲ぶことができます。歴史的な建造物や寺社などの文化遺産も多く、特色ある郷土芸能や伝統行事が継承され、彩り豊かな地域文化を形成してきました。

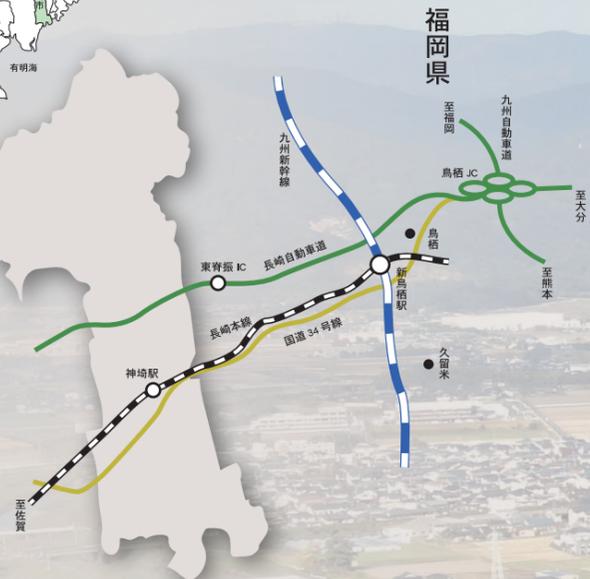


市名の頭文字「か」をモチーフに神崎町、千代田町、脊振町3町の豊かな自然をイメージ。太陽と山、川を、赤、緑、青で表現し、心豊かな田園都市の協調と躍動をデザインしています。

福岡・久留米・佐賀・鳥栖に近接、交通至便

【地勢】

神崎市は佐賀県東部に位置し、北は脊振山地を経て福岡県福岡市に、東は神埼郡吉野ヶ里町、三養基郡みやき町に、南は筑後川を挟んで福岡県久留米市や大川市に、西は県都佐賀市に隣接しています。気候は比較的温暖多雨ですが、冬季には山間部に路面凍結や積雪があるなど、四季の変化をはっきりと感じ取ることができます。市の面積は125.13 km²。市北部は筑後川水系の城原川や田手川の源流をなす脊振山（標高 1054.6m）を最高峰とする山間地域、市南部は河川が潤す肥沃な佐賀平野の穀倉地帯となっています。



人口3万人、好アクセスで企業進出続く

【人口・産業】

2022年(令和4年)4月の人口は30,789人(男14,865人、女15,924人)、世帯数は12,228世帯。近年、人口は減少傾向にある一方、世帯数は核家族化などによって、増加傾向にあります。産業別就業人口は商業・運輸通信業・サービス業などの第3次産業に従事する人が6割超を占め、製造加工業などの第2次産業が2割5分、農林漁業などの第1次産業が1割程度となっています。古来、農林業が盛んでしたが、豊富な水と良質な小麦を使って生産される「神埼そうめん」を筆頭に製造加工業も盛んになり、高度経済産業期を経て産業構造が大きく変化しています。長崎自動車道・東脊振ICが近接し、福岡、久留米、佐賀などへのアクセスが良いこともあって企業進出が相次ぎ、自動車関連製品や住宅関連製品、化粧品関連製品などの大規模工場も立地しています。



【沿革】

- 1889年(明治22年)4月1日 町村制施行により神崎村・西郷村・仁比山村・城田村・境野村・千歳村・脊振村が発足
- 1893年(明治26年)7月18日 神崎村が町制施行し神崎町に
- 1955年(昭和30年)3月31日 神崎町、西郷村、仁比山村が合併して神崎町に
- 1955年(昭和30年)4月1日 城田村、境野村、千歳村、蓮池町(一部)が合併して千代田村が発足
- 1965年(昭和40年)4月1日 千代田村が町制施行し千代田町に
- 2006年(平成18年)3月20日 神崎町、千代田町、脊振村が合併して市制施行で神崎市が発足



神崎市長 實松尊徳

市勢要覧発刊にあたって

神崎町、千代田町、脊振村が合併し平成18年に誕生した神崎市は、佐賀県の東部に位置する人口約3万人の、豊かな自然環境と歴史的な文化遺産が共存する魅力あふれるまちです。

豊かな土壌と水資源を活かし、米・麦・大豆に加えイチゴやアスパラガスなどの農作物の生産が盛んで、神埼そうめん、さしみこんにやく、菱(ひし)を使ったお菓子など、特産品も豊富です。また、蘭方医の伊東玄朴や社会教育に尽力した下村湖人など多くの偉人を輩出しています。

神崎市では「幸せつなごうかんざき」をスローガンに掲げ、安心して暮らせるまち、一人ひとりが活躍し、輝けるまちを目指して市民の皆さんと一緒に取り組んでいます。

この要覧をご覧になり、「神崎市で暮らし続けられる、暮らしたくなる」ための市の取り組みや、四季を織りなす自然、受け継がれる歴史・文化など、沢山の魅力を発見いただければ幸いです。これからも市政発展のためにより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

CONTENTS

つなぐ	子育て.....2
	教育.....4
	交流・国際交流.....6
せきあひ	医療.....8
	健康.....9
	介護・福祉.....10
	防災.....11
	環境.....12
	地域づくり.....13
	市民協働.....14
	定住促進.....15
ほこり	観光・自然.....16
	歴史・文化.....18
	スポーツ.....19
	特産品.....20
	ふるさと納税.....21
たかめろ	商工業.....22
	企業誘致.....23
	交通.....24
	公共施設.....25
	アクセスマップ.....26
	議会・行政機関.....28



子育て

過去から現在へ、未来へ。人から人へ、地域へ。

一人ひとりが幸せをつなぐまち

笑顔ですくすく安心サポート

神崎市は子育てに喜びや楽しみを持ち、安心して子どもを産み育てることができる社会を目指しています。保健センターでは妊娠、出産や乳幼児の健やかな成長発達の支援を実施。子育て支援センターでは相談、育児支援、自主的な育児サークル活動の推進など、様々な取り組みを行っています。また、日の隈公園キッズパークには、障がいのあるお子さんも一緒になって遊ぶことができる「インクルーシブ遊具」を設置しています。



子育て情報 HP



子育て支援センターで行っている子育て支援事業「ひだまり広場」

主な取り組み

- 子育て支援事業情報提供ポータルサイト「子育て with ねっと」、妊産婦産前・産後支援ヘルパー派遣事業、子どもの医療費助成事業、ベビー用品貸与事業など
- 子育て支援センター子育て支援情報発信、育児相談、未就学児対象「ひだまり広場」「ひだまりの会」開催など
- 神崎町保健センターと千代田町保健センターで妊娠・出産支援、成長発達支援



日の隈公園キッズパーク（P26 地図①）

神埼市内には保育所・認定こども園 10 施設（公立4、私立6）、小学校7校、中学校3校、高校2校、そして西九州大学（神埼キャンパス）があります。育児・教育機関はICT等社会の変化に対応した教育環境の充実に力を入れながら、幼児、児童、生徒、学生の健全な育成を目指しています。

また、市立図書館は神埼町の本館と千代田分館、脊振分館があり、千代田文化会館「はんぎーホール」や、公民館、体育施設なども整備。市民が歴史や文化を知り、学び、伝える機会も設け、一人ひとりが誇りを持って神埼市の魅力を語り継ぐことができるまちを目指しています。



まちづくりに意見を出し合う「中学生サミット」



地域で行われている読書活動「家読（うちどく）」



西九州大学神埼キャンパスの講義風景



子どもたちからお年寄りまでが参加する「新春書き初め大会」



神埼清明高校生による地域活動



主な取り組み

- 就学援助制度、いじめ・体罰・悩み等相談、小・中学生および高校生等医療費助成事業、児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、放課後児童クラブなど
- 市立図書館の本館と千代田分館、脊振分館を拠点に、家庭における読書活動「家読（うちどく）」の推進



交流

心のふれあい育むまち

神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、千代田町の「城原川ハンギーまつり」、春振町の「わんぱくすつり」は、地域の特性を活かした恒例の一大イベント。王仁博士顕彰公園でのイベントや子どもまつり、町民スポーツ大会なども行われ、多くの町民が参加・交流し、まちの一体感を育んでいます。



長崎街道かんざき宿場まつり



春振わんぱくまつり



王仁博士顕彰公園でのイベント

国際交流

3カ国と交流、ダイバーシティに富んだまちへ

神埼市はフランス東部のポークール市と友好姉妹都市提携を結んで交流しているほか、歴史的なつながりをもとに、韓国や中国の地域とも交流を続けています。また、市内在住外国人もベトナム 88 人、フィリピン 33 人、中国 28 人、インドネシア 11 人など世界 13 カ国からの合計 194 人 (2023 年1月時点) と、地域での交流も盛んになっています。今後も、「多様な人材が適材適所で能力を発揮することにより創造的な成果につなげていく」というダイバーシティに富んだまちづくりを目指します。



友好姉妹都市 1936 年 (昭和 11 年)、パリー東京間飛行に挑戦していたフランス・ポークール市出身の冒険飛行家アンドレ・ジャビー氏は、悪天候のため、春振山に墜落・遭難しました。旧春振村住民らの懸命な救助活動の結果、ジャビー氏は一命を取りとめました。この出来事から 60 年後の 1996 年、春振村とフランス・ポークール市は、友好姉妹都市提携を盟約しました。

医療

一人ひとりが元気に安心して暮らせるまちへ
支え合い助け合う大切さ

神埼市内には歯科を含め約 40 の病院・診療所があり、市民の健康を支えています。脊振町には神埼市国民健康保険脊振診療所が 2021 年に移転新築し、最新の設備も備えて医科と歯科で診療を行っています。また、神埼町と千代田町には保健センターを置き、食生活改善推進協議会や西九州大学等の関係機関と連携し、健診、生活習慣病予防、食の大切さ等についての啓発活動、健康増進のための適度な運動などに取り組んでいます。



2021 年に移転新築された神埼市国民健康保険脊振診療所



健康

みんな生き生き健康ライフ



食生活改善推進協議会の活動



西九州大学との連携による活動



健康アップセミナー

主な取り組み

- 各種健康診査、各種がん検診など
- 神埼市食生活改善推進協議会地区巡回料理教室、さが桜マラソン（おふるまい）、男性の料理教室、おやこの料理教室など
- 神埼市のちを支える自殺対策計画（2019 年～ 2028 年）策定（こころの健康相談など）

福祉

高齢者と障がいのある方を支える地域づくり

神埼市では、高齢者が健やかにいきいきと生活できるよう、介護予防や健康づくりの事業を行っています。また、障がい者の社会的自立促進を目的とした支援事業にも取り組んでいます。



主な取り組み

- 高齢者福祉サービス 配食サービス、寝たきり高齢者等紙おむつ支給事業、ものわすれ相談、認知症サポーター養成事業、介護予防地区相談・健康学習、介護予防サポーター養成講座、高齢者ふれあいサロン事業、介護予防教室（筋力アップ養成塾、いきいき百歳体操、シニア筋力トレーニング教室、おたっしゃいきいきクラブ、脳若教室）など
- 障がい児（者）福祉サービス 居宅介護：ホームヘルプ、重度訪問介護、行動援護、同行援護、重度障害者等包括支援、短期入所、療養介護、生活介護、障害者支援施設での夜間ケア等、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援、移動支援、日中一時支援、日常生活用具の給付、補装具費（購入・修理）支給、重度身体障害者訪問入浴サービス事業、福祉タクシー事業など

防災

みんなで作る安全・安心

多様化している災害等に対応するため、災害に強い公共施設等の拠点整備や、地区消防団等を中心とした地域一体で支え合う防災のまちづくりを進めています。

また、ハザードマップを全戸に配布、市内全域に防災行政無線を整備し、速やかな情報伝達を行っています。また、子どもたちの安全を守るため見守り隊の活動も行われています。



地域を歩きながら危険箇所などを確認した城原地区の防災訓練

主な取り組み

- 神埼市地域防災計画（令和4年9月改訂）、神埼市国土強靱化地域計画（令和2年3月策定）、神埼市防災メール配信、ハザードマップ作成配布、消防団への救命ボート類の配備、水路の護岸整備、排水ポンプ車導入など

環境

清潔で住みよいまちづくり

神崎市環境基本計画に沿って、温室効果ガス排出量の削減や、ごみの減量化、環境に配慮した事業活動などを推進しています。

また、地域の美化活動としてクリーン作戦の実施や、環境教育の一環として環境研修会を開催しています。

神崎市は、新たな枠組みとして佐賀県東部地区の2市3町でごみ処理を行う佐賀県東部環境施設組合を組織し、鳥栖市真木町にごみ焼却施設を、鳥栖市立石町にはマテリアルリサイクル施設を建設する計画を進めています。



佐賀県東部環境施設組合が建設する次期ごみ焼却施設のイメージ図



地域づくり

安全・安心で便利な地域を

少子高齢化、人口減少が進む中で、いかに安全・安心で便利な地域づくりを進めるかは大きな課題となっています。神崎市ではそれぞれの地域特性を考えながら、より安全で便利、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。



高齢者に好評の巡回バス

主な取り組み

- 支え合う地域づくりを目指す協議体「よらんね神崎」「きらっと千代田」「脊振笑おう会」の定期開催
- 地域内公共交通(神崎町内・千代田町内：神崎市巡回バス、予約型乗合タクシー「NORARU」運行/脊振町内：脊振町通学バス、予約型乗合タクシー「ふれあいタクシー」運行)
- 地域間公共交通(ジョイックス交通路線バス〈三瀬神崎線〉、西鉄バス〈神崎線・江見線・鳥栖神崎線〉)

市民協働

市民が主役のまちづくり

神崎市では各行政区の自治活動をはじめ、自治会・町内会や婦人会、老人会、ボランティア団体、NPO（民間非営利団体）などの様々なCSO（市民社会組織）が主体となった市民活動が行われています。みんなで「市民が主役」の自主的な活動を一。市では市民協働のまちづくりに対する支援を行っています。



地元産物売り出ししている「岩政ハッピーサロン」

CSO かんざきが行っている「かんざき櫛田の市」



住民グループが工夫を凝らす「かかし村」

主な取り組み

- まちづくり市民活動支援事業：多様化する市民ニーズに対応し、自立したまちづくりを進めていくため、自主的かつ公益性のある活動を実施するCSOを支援しています。神崎市内の中間支援組織としては特定非営利活動法人CSOかんざきが活動しています。
- 神崎市男女共同参画基本計画・DV被害者支援計画・女性の活躍推進計画（令和2年3月策定：男女共同参画の意識づくり、男女間のあらゆる暴力の排除、女性の活躍推進）

定住促進

暮らしたくなる環境整備へ 私たちは神崎に決めました

新たな人口の増加と減少抑制のために住環境整備や空き家対策、移住・定住の促進に取り組んでいます。定住促進住宅取得補助金、空き家・空き地バンク制度や空き家改修費助成事業、若者応援家賃補助事業などの各種支援を設け、若者世代の移住・定住促進を含めた事業を展開しています。

子どもの進学に際し帰郷定住、住宅取得補助金が後押し



神崎町協和町 井手 希さん

神崎で生まれ育ち、20歳で転出してからは各地を転々としていました。子どもの進学に際して住む場所を検討する中で、神崎が希望の条件を満たしていたため、帰郷して定住することを考え始めました。それでもすでに腰を据えた住居があったため、ふん切りがつかず、数年間検討を続けるうちに、神崎市に住宅取得補助金があることを知り、それが後押しとなりました。神崎は優しい方が多く、暮らしやすいです。年長者が多いように感じますが、皆さん活発で行動的。イベントも多く、脊振町・神崎町・千代田町で異なる楽しみ方ができます。自然豊かで、買い物や病院、銀行なども近く、困ることはありません。電車やバスで市外にも行きやすく便利です。福岡・久留米・鳥栖などへのアクセスもよいため、休日は気軽に出かけることができます。また、住民への補助や給付などのソフト面も充実しており、市報やお知らせで様々な取り組みを知ることができ、市政に住民が関われるまちだと感じています。

主な取り組み

- 定住促進事業（定住促進住宅取得補助金、若者応援家賃補助事業補助金、三世帯・新婚世帯同居等促進住宅リフォーム支援事業補助金、地方創生移住支援事業補助金（東京圏）、さが暮らしスタート支援事業補助金（東京圏を除く佐賀県外）、空き家改修費助成事業補助金など）

交通至便、自然美しく、住みやすい



神崎町八子 山本 裕一郎さん

長崎県出身で、長く自衛隊に勤務していたため、全国各地を20数カ所転動してきた中で、佐賀が気に入って、定住することにしました。息子2人に「ふるさと」といえる場所を持たせたいという気持ちもあって、2008年に神崎町に家建て、2013年には自宅を改装してパンの店を始めました。

自然が美しく、住みやすい。そして、九州の人口重心点に近いという地理にあって、交通の便がよく、福岡へ、久留米へ、佐賀へ、どこに行くにも便利。静かな環境で、都会のうっとうしさはないという「ほどよい田舎感」を感じています。今やインターネットを通じて、どこにいても何でも購入できるようになりましたから、不便を感じることもありません。地域のみなさんにも温かく受け入れていただき、心地よく過ごしています。

パンの店にも地元はもちろん、福岡市や久留米市からも多くのお客様に来ていただいています。神崎の魅力も大いにアピールしていこうと思っています。

季節の彩り豊かな自然

北は脊振山地を分水嶺として福岡市と接し、南は「筑紫次郎」とも呼ばれる筑後川が流れる神崎市。深い森をなす山間部から広々とした田園地帯まで、標高差 1000mに及ぶ地形は変化に富んだ自然を創り出しています。山に降り注いだ水は森を育み、せせらぎを生み、やがて溪流となり、大きな川となって穀倉地帯を潤します。豊かな自然が奏でる「水と緑の交響詩」は人々の暮らしと深く関わってきました。



弥生時代の環濠集落を復元した「吉野ヶ里歴史公園」(P26 地図②)



王仁博士顕彰公園内に韓国との交流で建てられた百濟門 (P26 地図③)



堀をめぐらした横武クリーク公園 (P26 地図④)



郷土の偉人たち



牛痘による種痘の導入と普及に尽力、将軍侍医も務める

いとうげんぼく
伊東玄朴 (1800 ~ 1871)

現在の神埼町仁比山生まれ。長崎でシーボルトに学び、江戸に出て将軍の侍医をも務めた。牛痘による種痘の導入と普及に努め、「お玉ヶ池種痘所」を開設。のちの東京大学医学部につながる。「九年庵」近くの旧宅は佐賀県史跡となっている。



『次郎物語』など著作の小説家・歌人・教育家

しもむらこじん
下村湖人 (1884 ~ 1955)

現在の千代田町崎村生まれ。佐賀中学時代から詩歌を投稿。東京大学英文科を卒業後、母校の佐賀中学教師となり、鹿島中学、唐津中学などの校長を歴任した。教職辞任後は社会教育に尽力し、自伝的小説『次郎物語』などの著作を残した。



随筆集『小鳥の来る日』など多彩な執筆活動

よしだけんじろう
吉田絃二郎 (1886 ~ 1956)

現在の神埼町莞牟田生まれ。早稲田大学文学部を卒業し、同大教授を務めた。退職後、作家活動に専念し、小説、随筆、評論、戯曲など幅広い分野で活躍。随筆集『小鳥の来る日』がベストセラーとなったほか、多くの作品を発表した。

春は新緑、秋は紅葉に包まれる「九年庵」(P26 地図⑤)

神崎市は地理的に大陸に近いことから古来大陸との交流が行われた地域で、多くの遺跡があります。中でも、吉野ヶ里遺跡は中国の史書『魏志倭人伝』に記された楼観や城柵を備えた弥生時代の環濠集落が発掘され、邪馬台国時代のクニの中心地、として復元されています。また、特色ある祭りや伝統芸能が受け継がれています。仁比山神社で12年に一度、申年の大祭に奉納される「御田舞」、櫛田宮みゆき大祭(隔年開催)の「太神楽」、高志神社秋祭りの「高志狂言」はいずれも県重要無形文化財に指定されています。このほか、大島地区の「水かけ祭り」、姉地区の「七福神」をはじめとする行事があり、伝統芸能や祭りの宝庫と言える土地柄です。

大島地区で行われている「水かけ祭り」



櫛田宮みゆき大祭(隔年開催)の「太神楽」



仁比山神社で12年に1度奉納される「御田舞」



高志神社秋祭りで行われる「高志狂言」

神崎市ではスポーツが盛んです。日本ハンドボールリーグに参加している実業団・トヨタ紡織九州「レッドトルネード」が神埼町を本拠地に活動しているのをはじめ、市民との交流事業も行っています。また、伝統といえる剣道はじめ、ハンドボール、新体操、カヌーなどの競技でジュニアから成年までが活躍しており、SAGA2024国スポ(第78回国民スポーツ大会)では剣道とハンドボールの会場に。いきいきしたアスリートたちが私たちを元気づけます。体育施設は市内各町にグラウンドや体育館、テニスコートなどがあります。



日本ハンドボールリーグで活躍するトヨタ紡織九州レッドトルネード



神埼清明高校男子新体操部の演技



神埼清明高校女子ハンドボール部



神埼高校カヌー部



吉野ヶ里ロードレース in 神崎市

主な取り組み

- 吉野ヶ里ロードレース in 神崎市(1月): 毎年1月の第4日曜日に吉野ヶ里公園とその周辺で行われます。2 km、4 km、10 kmのコースがあり、毎年子どもから大人まで多くの参加があります。



特産品

ブランド品づくりで神埼アピール

穏やかな気候と豊かな土壌、水資源をもとに発展してきた農業。良質米「さがびより」、ブランドいちご「いちごさん」のほか、アスパラガスや小ネギ、シイタケなど特産品が豊富です。また、390年の伝統ある神埼そうめんは、筑後川水系の豊かな水と佐賀平野の小麦、そして豊かな水量を活かした水車の利用で盛んになり、長年、神埼市の特産品として愛されています。また、昔から地元ではクリークの水を飲んでいたことや、菱に含まれる成分に着目し、菱を使った特産品の開発・販売を進めています。さらに、神埼町北部で養蚕業が盛んであったことから桑の葉にも注目。菱と桑を合わせた商品の開発にも取り組んでいます。



桑菱茶



神埼そうめん



ひしぼうろ



くわびしぼうろ



菱の実ロール

主な取り組み

農業基盤整備への支援・推進、農業機械や施設導入への助成・支援、西九州大学や企業と連携した新たな商品の開発・販路開拓、新たな特産品開発への助成など

ふるさと納税

あなたも郷土の応援団

ふるさと納税は市の財政を支える貴重な財源です。返礼品には神埼特産のそうめんをはじめ、県産米、佐賀牛、地元産はちみつなどの食品や日用品、工芸品合わせて700種以上を用意し、充実を図っています。また、「ふるさと名物応援宣言」を行い、新商品開発や販路開拓を支援しています。



神埼ふるさと納税 HP



寄附金の活用

- お寄せいただいた寄附金は神埼市の発展のため、大切な財源として5分野の各事業へ活用させていただきます。お申込みの際にいずれか一つをお選びください。
- ① かんざきの歴史文化の保全、観光・物産の振興～吉野ヶ里歴史公園や郷土の偉人顕彰など歴史文化の保全、観光・物産の振興
 - ② かんざきの自然環境の保全～森林の整備、田園景観の保全、河川環境の維持
 - ③ かんざきの福祉の充実～高齢者、障がい者、若年者、女性にやさしいまちづくり
 - ④ かんざきの未来を担う人材の育成～子どもの健全育成、子育て支援の充実、教育環境の充実
 - ⑤ 市長おまかせ～市長が必要と認める事業

たかめる

商工業

地勢を生かし魅力を高める。
地域産業の発展目指し豊かな市民生活を

地域活力を担う企業

東西方向に複数の広域幹線道路が通り、九州佐賀国際空港や長崎自動車道東脊振 IC も近く、企業立地に優れた条件を有しており、自動車関連製造業や食品製造業などをはじめとする企業の立地も進んでいます。また、産学官連携の企業連絡協議会を組織し、情報交換や PR 活動、視察研修などを行っています。



企業連絡協議会 HP



東洋ビューティ 佐賀工場



ヤクルト本社 佐賀工場



東洋ビューティ 佐賀工場 生産ライン

主な取り組み

- 進出企業への固定資産税優遇措置、企業誘致のための情報収集・情報発信、企業フェアへの出展による技術・製品のPRや販路開拓支援、商工会と連携した創業支援事業計画に基づく創業支援、新商品開発、特産品販路拡大、ブランド化推進など

企業誘致・産業育成

福岡市や久留米市に隣接し、九州における高速交通網の要衝・鳥栖市にも近接。長崎自動車道東脊振 IC へのアクセスも便利な立地であり、製造業の進出が続いています。神埼市ではさらに市内での産業を発展させるため、企業誘致を推進し、新産業の育成や創業支援に取り組んでいます。



便利な立地 優秀な人材確保も



トヨタ紡織九州株式会社 望月 郁夫社長

一神埼市に進出した経緯を教えてください。

トヨタ自動車福岡県宮若市に工場を建設することになり、私たちが内装部品メーカーとして工場適地を探していました。本来、シート生産工場は車の製造と同期して生産をするため、客先の近くに立地するのですが、近隣に適地がありませんでした。範囲を広げて検討する中で、高速道 IC に近い現在地が候補にあかりました。その際、当時の神埼町から熱烈的な誘致を頂くとともに、宮若市からは少し距離がありますが、客先への製品輸送も便利であり、十分な面積も確保できたため、現在地への進出を決めました。

一進出されて感じられた利点がありますか。

進出協定を結んだのは 1991 年、いわゆるバブル経済期で、人材確保が大変困難な時期でした。そんな中でも、当時 150 人もの地元雇用ができるなど、振り返ってみると、人材確保の面でいい決断だったと考えています。また近年でも福岡での人材確保はバブル期並みの厳しさとなりつつあり、その面からも先見の明があった判断だったと思っています。更に佐賀の皆さんの素朴で真面目な県民性を活かし、ひとつひとつにこだわり着実にレクサス品質を積み上げることができたのも大きな利点であったと考えています。

一1992年8月に本社工場が稼働開始しましたが、その後はいかがでしたか。

その後もやる気を持った良い人材の採用により組織の充実を図れたことと、地域からのサポートも頂き敷地を増やしなが、2003年に第2工場、2015年に第3工場を増築するなど、順調に事業を発展させることができました。また私たちは本業だけでなく、我々を支えて頂いている地域社会との調和や貢献にも尽力すべく、様々な取り組みを行うことができました。皆さんもご存知のハンドボールチーム「レッドトルネード」の活動もその一つです。佐賀国体（1976年）の際、神埼町（当時）でハンドボール競技が行われたことから、町から「チームをつくれなやか」との話を頂き、早速チームを創設し現在に至ります。またレッドトルネードの練習場所として設立した体育館「クレインアリーナ」は、レッドトルネードのためだけでなく地域の子どもの練習や試合会場としても使ってもらっています。加えてこの体育館は非常用食品も備蓄されており、災害時の避難所としても活用されています。さらに「端数クラブ」という従業員の給与の千円以下の端数を子ども食堂へ寄付する活動や地域清掃活動などの地域貢献活動も続けています。

一将来に向けて希望されることはありますか。

カーボンニュートラルや SDGs など社会の課題に取り組む際に、一つの企業ではなかなか進められない面があります。将来に繋がる重要なテーマを解決すべく、地域自治体と企業が共同で活動を進めることができれば、他地域にも参考となる将来課題解決の雛形作りや、佐賀県や神埼市の魅力アップにも繋がり、佐賀県や神埼市で働きたい人や進出したい企業が更に増えるのではと思っています。

たかめる

交通

四方に広がる交通網

神埼市のほぼ中央を JR 長崎本線と国道 34 号が東西に横断し、その北側に長崎自動車道と県道 31 号（佐賀川久保鳥栖線）や県道 21 号（三瀬神埼線）、46 号（中原三瀬線）、51 号（佐賀脊振線）、南部の国道 264 号とを結ぶ国道 385 号などが走り、特に国道 385 号は福岡都市圏へのエントランスとして期待されます。このように神埼市は佐賀市や鳥栖市などの商業圏や九州佐賀国際空港まで 20km 圏内であるだけでなく、福岡都市圏や福岡空港へも短時間でアクセスできる、交通利便性に優れた位置関係にあります。



長崎自動車道にある西鉄バス停「高速神埼」



長崎自動車道東脊振インターチェンジ

市中心部を走る国道 34 号



JR長崎本線の神埼駅



公共施設

快適な暮らしへ施設づくり

市民生活の利便と福祉向上のため、公共施設の整備も進めています。神埼市役所の本庁舎を 2020 年 9 月に移転新築したのをはじめ、脊振支所などが入る脊振交流センター、火葬場「和の杜」（吉野ヶ里町との共同施設）などを整備。公共施設の再編を行いました。神埼町の中心部に行政機能を集約し、千代田町と脊振町にも交流センターで各種行政サービスを提供しています。また、情報館をはじめとして、住民生活に役に立つ施設を市内各所に配置しています。



2020 年 9 月に移転新築した市役所本庁舎



千代田支所などが入る千代田交流センター



脊振支所などが入る脊振交流センター



かんざき遊学館（左）と神埼情報館（右）



市立図書館本館や神埼町保健センターが入る中央交流センター



⑥ 眼鏡橋

たかめる

マップ

快適・便利・魅力満載

豊かな自然、古代から積み重ねられてきた歴史、多様で多彩な伝統文化、福岡都市圏や久留米、佐賀、鳥栖などに近く便利な交通網、そして市民の生活を支える公共施設などをご案内。



観光情報 HP



<アクセス>

- 航空機**
東京・羽田空港から九州佐賀国際空港まで約 120 分、九州佐賀国際空港から神埼市までタクシーで約 30 分
- 電車**
JR 博多駅から約 50 分 (博多から鳥栖まで特急利用、鳥栖から長崎本線「神埼駅」下車)
- 高速バス**
福岡空港から約 40 分 (長崎自動車道「高速神埼」バス停「下車」)
- 自家用車**
福岡・天神から約 50 分 (長崎自動車道「東脊振 IC」で下りる)



福岡県

⑦ 仁比山神社



⑧ 姉川城跡



⑨ 榎田宮



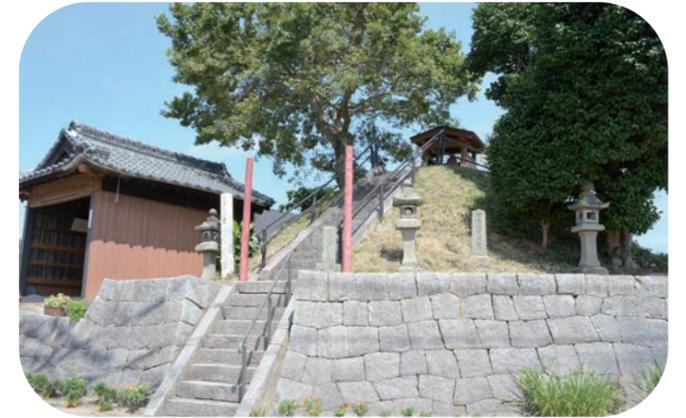
⑤ 九年庵



⑩ 白角折神社の大楠



⑪ 高取山公園



⑫ 長崎街道・一里塚



⑬ 仁比山公園・愛逢橋



⑭ 下村湖人家



たかめる 行政・議会

市民とともに歩む

神崎市は行政と議会が両輪となり「みんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまち」を目指して、市民の安全・安心の確保、生活・福祉の向上に取り組んでいます。神崎市議会の議員定数は18名で、市民の要望を市政に反映させるため日常生活に関する様々な問題について審議しています。本会議はインターネットで映像を公開しています。市役所は神埼町の本庁舎のほか、千代田支所、脊振支所があり、住民サービスの体制を整えています。また、総務企画部、市民福祉部、産業建設部、教育委員会、議会事務局などの体制で市政の各課題に取り組んでいます。さらに、活性化に向けて、若手職員がワーキンググループを組織し、よりよい行政の在り方について話し合いを進めています。



神崎市議会議員（定数18名）



毎日多くの市民が訪れる市役所1階の住民窓口



よりよい行政の在り方について話し合う市役所若手職員のワーキンググループ

